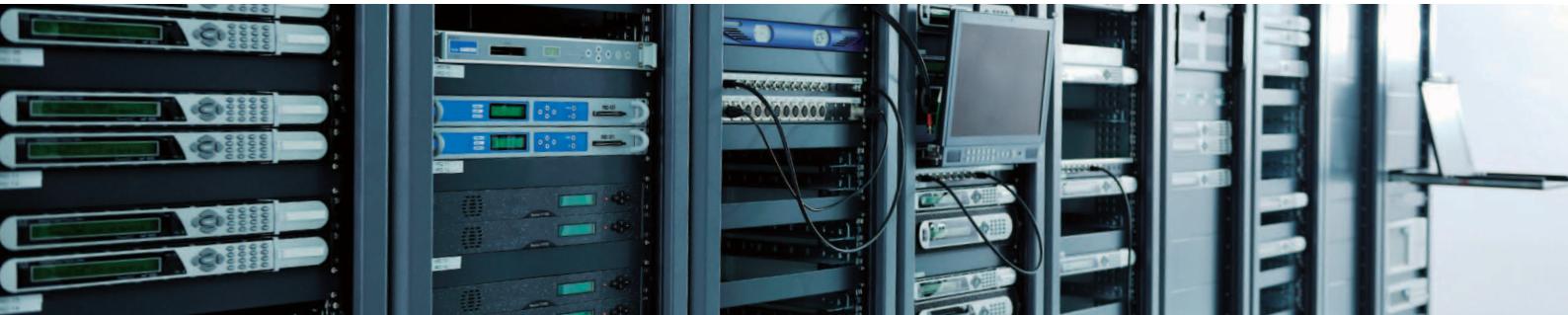


> 顧客からの勧めをきっかけに 月額課金のサービスに採用 「売れるバックアップ」のベースに選ばれた Arcserve UDP

高速、高圧縮、ベアメタル復旧機能で、
マルチテナントビジネスを強力支援



ユーザプロフィール

業 種：IT 業界、サーバハウジングサービス
会社名：プロックスシステムデザイン株式会社

PROX
PROX SYSTEM DESIGN

課題	経緯	導入	効果
プロックスシステムデザインでは、月額レンタルサーバのオプションとしてバックアップサービスを提供していた。それは自社でスクリプトを組んで提供しており、お客さまが自らファイルを選んでバックアップ設定およびリストアする方式であったため、何かとサポートエンジニアの対応が必要だった。	専用サーバサービスの強化を機に、バックアップサービスも見直そうとパッケージ製品の検討をし始めたとき、顧客である霧島酒造からLinux版のArcserve UDPの機能検証を求められた。それは霧島酒造が構想していた通販系サイトでの適用を考えての要望で、プロックスシステムデザインは顧客対応の一環として、Arcserve UDPの調査を開始した。	実際に使用してみると、Arcserve UDPはわかりやすく、使いやすいGUIが提供されており、大容量データを元データの1/3という高圧縮率かつ高速にバックアップすることができた。これならマルチテナント環境であっても効率の高いバックアップ運用が実現できると判断。月額料金での提供も可能であったため、自社サービスへの適用を決定した。	Arcserve UDPベースのサーバ丸ごとバックアップ可能な新サービスは、既存のバックアップサービス利用顧客の移行によってすでに投資を回収。新規商談でも有力なセルスピントとなっている。同社のバックアップ運用工数も効率化しており、ベアメタル復旧機能はハードディスク障害時の対応工数が従来の1/10に削減可能と試算されている。



課題

自社開発のバックアップサービスで発生していた顧客対応

プロックスシステムデザインは、インターネットの黎明期からその発展を根幹から支えてきた企業である。設立は1997年。当初のメインビジネスはWebデザイン制作であったという。社名に”デザイン”的”の一言が入っているのはそれに由来している。

制作したコンテンツをサーバに搭載して提供し始めたのだが、インターネット利用が今ほど一般的ではなかったため、サーバの提供そのものに大きな需要があった。そこで同社はビジネスモデルを転換。Linuxベースのレンタルサーバをリーズナブルな価格で提供した。その後、データセンターを運営するなどトータルサービスをラインナップした。現在名のあるインターネットサービス企業が、ベンチャー時代に同社のサービスを利用したというケースは多い。信頼性の高い設備と環境をベースに、快適な使い勝手、利用しやすさを実現しつつ、プロックスシステムデザインは大規模なクラウドサービスとは一線を画す顧客ごとに物理サーバ提供によるハウジングサービスを展開している。

個人顧客、法人顧客を問わずにニーズのある同社が、データバックアップサービスをオプションで提供し始めたのが、データの重要性が認識され始めた2002年ごろのことだった。同社が自らバックアップ用のスクリプトを組み、サービスを申し込めば顧客がそのスクリプトを利用して自らファイルを選び、バックアップ設定を行えるようにした。

早くからレンタルサーバを利用し始めた顧客は概してITリテラシーが高く、そのため大きな問題はなかったのだが、それでもサポート対応は必要だったという。プロックスシステムデザイン セールスエンジニア 村橋輝哉氏は次のように語る。

「法人のお客さまは、業務データがバックアップ対象であるため、操作は慎重になります。作業手順書の提供をしていましたが、ファイルリストア時のサポートエンジニアのメール対応工数は結構高かったです。また、ファイルベースのバックアップであったため、ハードディスク障害などで1から復旧が必要になったときは、お客さまがお使いの全アプリケーションを再インストールして、設定を最初からやり直す必要があり、非常に大変でした」

さらにサーバはパーツを個々に調達して同社で組み上げていたので、構成を変えるとスクリプトにも修正を加える必要がある。それを避けるため、互換性のあるパーツを常に在庫として一定量確保し続けた。これも隠れた苦労の一つだったようだ。



プロックスシステムデザイン
株式会社
セールスエンジニア
村橋輝哉 氏

経緯

顧客である霧島酒造から求められたLinux版Arcserve UDPの機能検証

2012年ごろから、プロックスシステムデザインはバックアップサービスの見直しを検討し始めた。お客さま作業を前提とした独自サービスというのが、あまり好意的に受け止められなくなっていた。

おりしも、法人顧客を対象に、メーカー製サーバを採用した専用サーバプランを強化しようとしていたので、このタイミングでバックアップツールもパッケージ製品を採用しようと市場調査を始めた。

そうした中、同社の顧客である霧島酒造から「Arcserve UDPをテストしてほしい」という話が出たのだ。霧島酒造は黒霧島、赤霧島などの焼酎で知られる九州の酒造メーカーである。15年の長きにわたってプロックスシステムデザインでWebサイト、メールサーバを利用していた。長いつきあいから霧島酒造とプロックスシステムデザインは、テクノロジーに関して腹を割って話せる関係となっていた。霧島酒造が通販系サイトの導入を検討することになり、そのシステム・バックアップにLinux版のArcserve UDPを使ってくれないかということになったのだ。プロックスシステムデザインは、霧島酒造向け対応の一環として機能検証を始めた。



導入

GUI、スピード、データ圧縮率など多くの点で Arcserve UDP を高評価

村橋氏は実際に操作してみて、使いやすく、わかりやすい GUI に驚いたという。「これなら同社のバックアップサービスのベースとして導入しても、誰でも使いこなせると思った」。エンジニア集団のプロックスシステムデザインではあるが、全員がバックアップ運用に長けているわけではない。マニュアルを見なければ対応できないものではサービスとして提供は難しいが、Arcserve にはそのような心配をする必要はなかった。

それにもまして評価したのが、データ圧縮率とバックアップスピードである。同社の同じくセールスエンジニアである倉持和彦氏は次のように語る。

「500GB ぐらいのデータ容量をアクティブに使われるお客さまがいらっしゃるのですが、これを Arcserve UDP でバックアップしてみて驚きました。160GB と半分以下に圧縮されたのです。またフルバックアップスピードも 500GB ぐらい容量があると、100MB 回線を使ってもこれまで半日ぐらいかかるていました。それが 3 時間で完了します。これならマルチテナント環境で利用しても高い集約率でストレージに格納でき、効率の高いバックアップ運用が可能だと思いました」

さらに同社は、Linux サーバのみならず、Windows サーバ環境も提供している。その両方のバックアップ管理が統合コンソールで一元的に行えるという点もサービス事業者として大きな魅力だった。

Arcserve というブランドも、村橋氏の気持ちが傾いた大きな理由であるという。

「Arcserve は日本市場で豊富な実績があり、すでに名が通っています。営業活動でバックアップサービスに言及する際、『ベースは Arcserve UDP です』というと話の通りが早く、商談でプラスに働くと考えました」

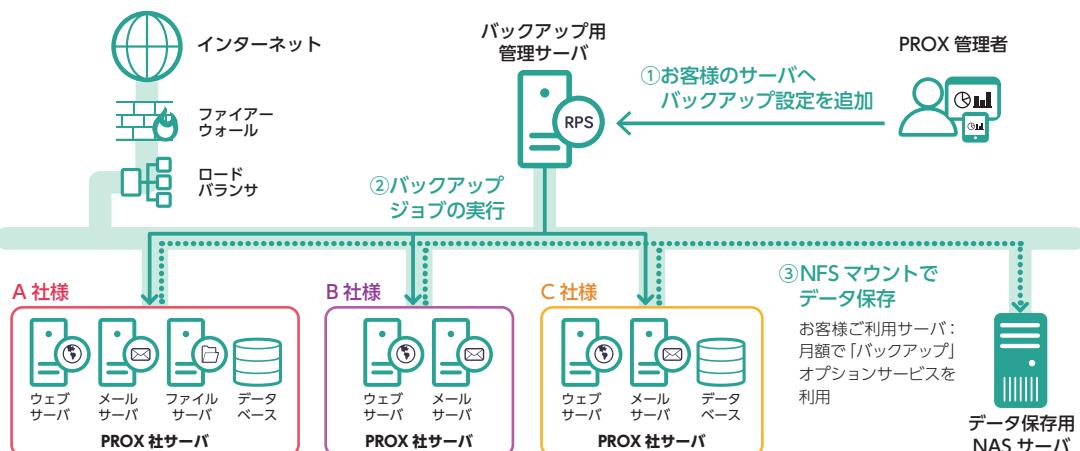
検討プロセスでは他社製品との比較も行ったが、同氏は「お客様の見立ては確かだ」と思ったそうだ。自社のサービスは自社で選ぶ、といった変なこだわりはなかった。誰の勧めであっても素直に耳を傾け、いいものはいいと認めて取り入れる。それこそが、技術潮流が劇的に変化し続ける IT 業界で競争優位を保ち続ける姿勢だった。

だが、ひとつだけ譲れないポイントがあった。月額固定料金の実現だ。サーバ提供などメインサービスはすべてこのプライスモデルで展開しているため、顧客の利便性、同社のオペレーションの観点からも統一したかったのだ。それも価格変更なく提供できれば、既存のバックアップサービス利用顧客にもスムーズに移行してもらえる。調べてみると、Arcserve はサービスプロバイダ向けプログラム体系を提供しており、それは同社の構想したプライスモデルに合っていた。その時



プロックスシステムデザイン
株式会社
セールスエンジニア
倉持和彦 氏

プロックスシステムデザイン様 構成イメージ





点で投資回収の目途も立ったという。

幸いなことに、Arcserve UDP の高速バックアップ性能がそのまま生かせる NASとの出会いもあった。プロックスシステムデザインは迷うことなく Arcserve UDP の採用を決定した。

効果

Arcserve UDP が新規商談活動の有力なセールスポイントに

基盤構築にはひと月もかからなかった。既存のバックアップサービス利用顧客の了解のもと、環境移行を行いつつ、採用を決定してから 2 カ月後には専用サーバの新しいオプション「バックアップサービス」を本稼働させた。大きな特長は、Arcserve UDP のイメージベースバックアップ機能を生かして、OS、ソフトウェアも含んだサーバを丸ごとバックアップすることが可能になった点だ。サーバ全体を復旧するベアメタルリカバリも追加サービスとして提供する。

村橋氏は今日までの商談状況を以下のように語る。

「営業活動において、有力なセールスポイントになっています。特にシステム・インテグレータのお客さまは IT 資産としてのデータ重要性をよく認識されているため、Arcserve UDP ベースでサーバを丸ごとバックアップすることが可能だというと、7.8 割の確率で『じゃあ、それも』とオーダーをいただけます」

霧島酒造も新発売の「白霧島」をキャンペーンする際、3 カ月間、同社の専用サーバ、バックアップサービスを利用した。このように必要な時に必要なだけ利用されることこそ、同社のめざすところだという。

新しいサービスになって、バックアップ作業はお客さま作業から同社作業へと変更したが、運用工数はむしろ以前より削減したそうだ。何か障害が発生したとしても、顧客とのメールは 1 往復だけで対応が完了。そのほかのバックアップ運用作業も、日常運用の中の一環の中に吸収されてしまった。

村橋氏が導入してあらためて付加価値の高さを実感しているのが、ベアメタルリカバリ機能だ。

「まずお客さまにとって、深刻なハードディスク障害が発生したとしても、サーバの全復旧が迅速に行えるため、ビジネス中断のリスクが大きく軽減します。当社にとっても、アプリケーションの再インストール、再設定などの作業にもう煩わされることはありません。まだ実際には発生していませんが、この作業では工数が 1/10 以下になると確信しています」（村橋氏）

同社ではさらに P2V 移行が容易に行えたり、レプリケーション機能を利用した遠隔地バックアップが実現可能なことも大きなメリットと認識している。具体的なサービス設計はこれからの話となるが、Arcserve UDP は、同社のさらなるサービスラインナップ拡充に今後も大きく貢献しそうだ。



すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。
製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。
Copyright ©2015 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

Arcserve Japan

お問い合わせ

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング
Arcserve ジャパン ダイレクト 0120-410-116

*記載事項は変更になる場合がございます 2015年11月版

詳しくは Web で！

arcserve.com/jp

検索

Printed in JAPAN